

皆さん、おはようございます。今日で令和4年度が終わります。そして、私の式辞もこれが最後となります。最後なので、式辞らしくはないですが、私の高校時代の同級生の話をしたいと思います。少し長くなりますが、最後ですから許してください。20歳の時のクラス会で、衝撃を受けた友人との思い出を二十年後に文章に書き起こし、40歳の時に本にして出版しました。その話を今、60歳で、私とその友人の後輩である皆さんに話します。40歳の時の文章なので、自分のことを「僕」と呼んでいるので、ちょっと違和感もありますが、聞いてください。

高校時代に凄い奴がいた。ソフトテニスの名選手で2年生の時、インターハイにも出場した。8月のインターハイに出場することが決まって、彼は7月の修学旅行に行くのもやめて練習に没頭していた。いくら頑張っても全国大会で勝ち進むことができるはずもないのに、修学旅行を返上したことが、僕にとってはとても不思議に感じられた。しかし、彼にとっては練習をおろそかにして試合に臨むことが、勝ち負け以上に重い意味を持っていたのだろう。だからといってテニスにすべてを賭けて、将来もそれで進学しようと考えていたわけではなく、勉強もしっかりやっていて、現役で神戸大学に合格した。ここまでくると、まじめすぎて、ストイックすぎて付き合いにくい奴だなと感じられるかもしれないが、冗談の通じる気のいい奴で、気楽に付き合える面白い奴だった。坊主頭で顔はインドのガンジーに似ていた。名前は、津乗弘美という。

そんな津乗と真剣勝負をしたことがある。僕らの高校時代には、運動会で1500メートル走という、まことにつまらない種目があった。なんと各グループの代表20人くらいが、運動場のトラックを7周半するのをただひたすら見ているのだ。よくこんな種目があったものだと感心しきりである。昭和は本当に、のんびりしていたのだ。この種目で僕らは勝負した。津乗も長距離には自信を持っていたが、僕も陸上部。しかも中距離は専門種目。どうしても負けるわけにはいかない。いや、絶対に勝てる自信もあった。僕らは負けた方が丸坊主になるという賭けをした。後で考えると、彼はいつも坊主だったのだから、負けてもただ散髪するだけのことで、僕の方が圧倒的に精神的不利な状態だったと思われる。スタートと同時に津乗はラストスパートかと思われるくらいの速さで走り始めた。当然、ついていけたのは僕一人。僕らは他を大きく引き離し、一騎打ちとなった。5分弱の間、二人の独壇場であったことは間違いないが、最後までどうしても彼の前に出ることはできなかった。結局最後の一周で20メートルほど差をあげられて負けてしまった。悔しさでいっぱいだったが、やはり彼はレベルの違う人間なのだと勝手に納得して、次は勝つぞという気持ちより、彼には勝てないというあきらめの方が大きかった。

あれから20年、彼は走っているかどうか知らないが、僕は毎年、小豆島でフルマラソンを走っている。昨年、市民ランナーの目標である4時間を切ったの完走、いわゆる「サブ4」を達成した。僕の夢は、マラソンの大会に出場しながら、生涯で1000キロ走ること。マラソンをやっていると毎年目標が新たになり、夢に一步一步近づいているような気がする。いつか素敵な夢を叶えよう。そのためにいつまでも夢を持ち続けよう。そして、継続した努力を忘れないでいよう。

さて、高校を卒業して2年後にクラス会があった。津乗も来ていて、思い出話に花が

咲いた。いきおい、あの日の勝負の話になった。「まさか陸上部が負けるとは思わなかったぜ」と僕が笑いながら言うと、彼は照れくさそうにこう言った。「俺、高校時代、1日も休まず、毎朝5時に起きて、1時間ほど走ってたんだ……」僕は恥ずかしくて涙が出た。

どうですか。私は津乗のことを常人とはレベルの違う天才だと思っていました。しかし、彼はレベルの違う天才ではなくて、努力の天才だったのです。西高にはすごい同級生がいるでしょう。この中にもいますよ。だから、西高の同級生をリスペクトしよう。そして、自分や凄い同級生を支えてくれる西高の先生方をリスペクトしよう。西高の先輩やはるか昔に卒業した先輩をリスペクトしよう。西高の後輩や自分たちが卒業してから西高で学ぶ後輩をリスペクトしよう。そして西高を好きになって……、そしてもう一つ、西高の校歌を好きになろう。それが、母校愛です。そんな母校愛あふれる素晴らしい西高に、こんな素敵がギュッと詰まった西高に、皆さんは、通っているのだから、学校休むのはもったいない。休んだら損します。一日でも多く、凄い友人と触れ合いたしましょう。

私はこの素晴らしい西高で2年間過ごしながら、この六十年の人生で自分が最も自慢できることを見つけました。いや、思い出しました。それは、皆さんと出会えたことだ、などと校長が言いそうなことではないですよ。マラソンをいっぱい走ったことでもないですよ。校長になったことなど、何の自慢にもなりませんよ。私の人生で最高の自慢は、この素晴らしい西高で、この素敵がいっぱい詰まった西高で、なんと、高校時代に、な、な、なんと、「3か年皆勤賞を受賞しました」一日も休まず、西高生活を楽しんでいただけです。こんな得したことはありません。

4月から平成5年度が始まります。新しい西高がスタートします。コロナも5類になり、コロナ前の学校生活に戻るかもしれません。みなさんが経験してこなかった、3学年が体育館に入っての集会や、昔の西高祭や、野球応援が戻ってくるかもしれません。経験はなくても、皆さんのチャレンジ精神とアイデアで、新しい西高を作り、毎日、目いっぱい西高生活を楽しんでほしいと思います。応援しています。ありがとう。